

別紙様式 2

授業科目名	心理学入門	大学名	宇都宮共和大学
科目区分	教養科目	開講時期	前期（4月5日～7月29日）
学部・学科等	シティライフ学部	曜日	金曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	4限（14:40～16:10）
標準対象年次	1学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	宇都宮シティキャンパス
担当教員名	小浜駿 准教授		
電話番号（代表者名）	028-650-6611 （学務課 浮須 [ウキス]）	e-mail アドレス	
オフィスアワー	特に設けず、電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業概要> 入門講義として心理学の基礎的な知見を紹介する。社会現象を扱うという点で、心理学は社会学と同じ側面を有する。そこで、心理学と社会学との違いについても随所で取り上げて説明する。第4回までは心理学の基盤となる知見や思考の枠組みについて概説し、第5回以降で領域別の解説を行う。</p> <p><到達目標> 到達目標 心理学の基礎知見について広く理解し、自らの教養として身につける 高度な到達目標 講義内容を十分に把握し、コミュニケーションや日常の問題解決に応用できるようになる</p> <p><授業計画> 第1週 本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、社会学と心理学の違いについて概説する。 第2週 心理学の基盤となっている反証主義哲学について概説する。その後、実験法や観察法など、心理学で用いられる測定法について紹介する。 第3週 古典的条件づけと道具的条件づけについて概説し、その違いについて述べる。その後、ワトソンの行動主義について述べる 第4週 ワトソンの行動主義に対する批判と新行動主義（SOR心理学）およびゲシュタルト心理学について述べる。 第5週 記憶のメカニズムについて概説した後、潜在記憶やプライミングなど、記憶に関する様々なトピックについて紹介する。 第6週 情動という用語について説明した後、情動形成におけるキャノン-バード説とジェームズ-ラング説について解説する。 第7週 恥ずかしい、誇らしいなど、近年着目されるようになった高次感情の機能について説明する。 第8週 視覚や聴覚、皮膚感覚などの諸感覚の特徴について概説したのち、錯視や仮現運動など、代表的なトピックを紹介する。 第9週 認知発達や道徳性の発達を中心に、様々な発達現象について概説する。 第10週 類型論と特性論について述べた後、ミネソタ多面人格テストや5因子性格検査について解説する。 第11週 「他者を意識する自分」をキーワードに対人関係に関する心理学的トピックを多数紹介する。 第12週 対人ストレスの観点を加えながら、対人関係の否定的な側面について考察を深める。 第13週 身体、性格、性差など、対人魅力に影響を与える様々な要因について解説する。 第14週 Leeの色彩理論や恋愛幻想など、恋愛に特化した現象について解説する。 第15週 進化心理学や犯罪心理学など、近年着目され始めた心理学領域についてオムニバス形式で紹介する。</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 教科書 使用しない。毎回授業資料を配布する。 参考書 『心理学第5版補訂版』（鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編 東京大学出版会 2020年2,400円）</p> <p><成績評価法> 小テスト 60%、期末テスト 40%で評価する。小テストは第6回終了時と第15回終了時に行い、それぞれ30%を配分する。小テストも期末テストも多肢選択問題を主とする（持ち込み不可）。</p>		